

HOME

電子インボイスとは

協議会について

会員情報

入会について

お問合せ

HOME > 電子インボイスとは

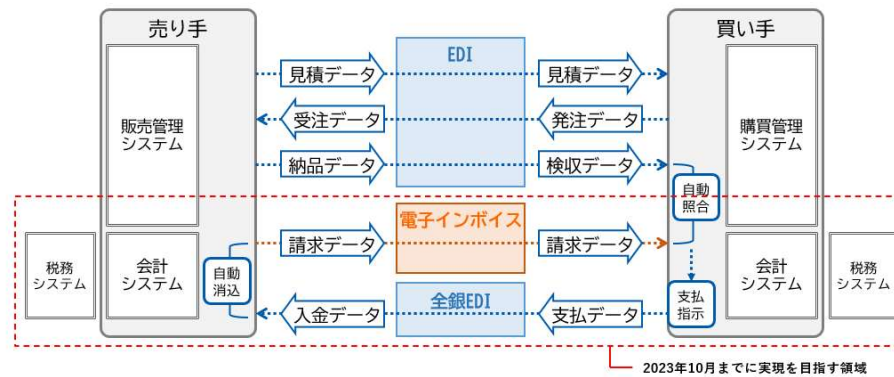
電子インボイスとは

バックオフィス業務全体のデジタル化を実現する

事業者のバックオフィス業務は、デジタル化が十分なだけでなく、紙・FAXのやり取りを中心とした多くのアナログなプロセスが存在しており、デジタルとアナログの世界を行き来する中途半端な状態となっており、そのことが効率化・生産性の向上の妨げとなっていると言われています。

そのような状態を解消するためには、紙を前提とした業務プロセスを「電子化」(Digitization)するだけでは十分ではなく、その業務プロセス自体をデジタルを前提に見直す「デジタル化」(Digitalization)が不可欠となります。EIPAは、標準化された電子インボイスの利活用・普及を通じ、事業者のバックオフィス業務全体の「Digitalization」を推し進めていきたいと考えます。

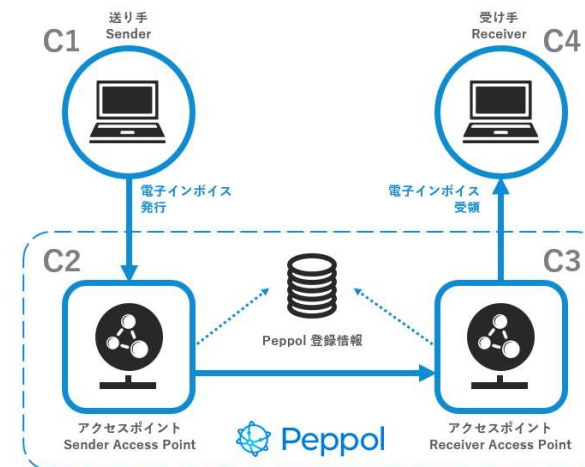
標準化された電子インボイスの利活用等は、請求から支払、さらにはその後のプロセスである入金消込といった会計・税務の業務についても、エンド・トゥ・エンドでデジタルデータでつながり、事業者のバックオフィス業務全体が効率化するだけでなく、その結果としての新しい価値やベネフィットも期待できます。さらに、請求に係るプロセスのデジタル化により、その前のプロセスである契約・受発注といったプロセスのデジタル化も促され、「取引全体のデジタル化」が進むことも期待されます。



Peppol (ペポル) について

Peppol (Pan European Public Procurement Online)とは、請求書（インボイス）などの電子文書をネットワーク上でやり取りするための「文書使用」「運用ルール」「ネットワーク」のグローバルな標準仕様であり、Open Peppol（ベルギーの国際的非営利組織）がその管理等を行っています。現在、欧州各国のみならず、オーストラリア、ニュージーランドやシンガポールなどの欧州域外の国も含め30か国以上で利用が進んでいます。

Peppolは、「4 コーナーモデル」と呼ばれるアーキテクチャを採用しています。ユーザー（売り手（C1））は、自らのアクセスポイント（C2）を通じ、Peppolネットワークに接続し、買い手のアクセスポイント（C3）にインボイスデータを送信し、それが買い手（C4）に届くという仕組みです。Peppolユーザーは、アクセスポイントを経て、ネットワークに接続することで、Peppolネットワークに参加する全てのユーザーと電子インボイスをやり取りすることができます。この仕組みは、例えば、メーカー（アプリケーション）からインターネットプロバイダーを介して相手先に届くという電子メールの仕組みに似ています。



なお、わが国の電子インボイスの標準仕様である「Peppol BIS Billing JP」は、売り手のアクセスポイント（C2）と買い手のアクセスポイント（C3）との間でやり取りされる電子インボイスの標準仕様です。その「Ver.0.9」（Peppol BIS Billing JP 0.9）（2021年12月15日版）については、Open Peppolのウェブサイトにて公開されており、2022年秋にPeppol対応サービスの提供が可能となるよう、今後、必要な更新等が行われていくこととなります。

お問い合わせ

当協議会の活動、ならびにPeppol BIS Billing JPについてのご質問や、
入会に関するご相談については、下記よりお問い合わせください。

お問い合わせはこちら [▶](#)

電子インボイス推進協議会 事務局
E-Mail:info@eipa.jp
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-3-6 赤坂グレース
ビル 4F
(一般社団法人ソフトウェア協会内)

▶HOME

▶電子インボイスとは

▶協議会について

▶会員情報

▶入会について

▶お問い合わせ

▶個人情報保護方針